

後援会法人会員

探訪



FOCUS

知多信用金庫

後援会法人会員

後援会法人会員である法人様を訪問し、お話を伺いました。

TOP INTERVIEW



時代のニーズに合わせ、
柔軟な発想で
地域と
関わっていききたい。

さいとう けんいち
齋藤 健一
理事長

創業以来 90 年、 「地元とともに歩む」

私どもは1927年の創業以来、「地元とともに歩む」という経営理念のもと、地域の発展を第一に考え、親しまれ信頼される信用金庫を目指してまいりました。2017年9月18日には90周年を迎えることができ、ひとえに皆様のご支援のたまものと感謝しています。その想いを込め、90周年事業の一環として地域の方々にご利用いただけるホールを備えた本店営業部をオープンさせました。続いて2018年1月に事務センター、さらには2020年に本部棟が竣工予定で、今まで以上に快適にご利用いただけるよう店舗体制の充実を進めているところです。

また、社会貢献活動として始めた地域振興支援制度「夢サポート」も14年目を迎えています。毎

年1000万円を上限に、地域振興や活性化につながる事業や活動に対して助成金を提供し支援させていただいていますが、これまでの助成(支援)先は600件を超えました。近年では助成金を受け取り、助成先に選ばれたことをステータスととらえてくださる方も多いと聞き、嬉しい限りです。今後もこの制度を継続し、地域の発展のために還元させていきたいと考えています。

地域の活性化はもちろん、 職員が働きやすい 環境づくりにも注力。

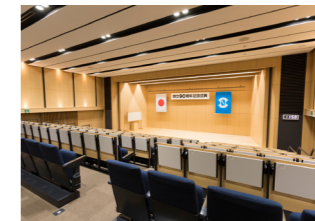
信用金庫として地域を豊かにすることはもちろんですが、同時に職員も豊かになるべきだと常々感じています。私が若い頃は残業や休日出勤をすることが美德とされた時代でしたが、今思えば

失うものも多かったと思います。だからこそ、職員が働きやすい環境を大切にしたい。そうすることで全員が想いを共有して一致団結できると思いますが、職員がイキイキと働いている姿を見ることで、地域の方から信頼できる企業として認められるはずですから。世間でもよく「働き方改革」が叫ばれていますが、当金庫でも以前から仕事の生産性向上や女性活用の取り組みを推進しています。そのひとつが、2009年に発足した女性職員の企画チーム「幸せのクローバープロジェクト」です。独自の視点と細やかな配慮でお客様の声や地域のニーズを汲み取り、これまでに女性専用の自動車ローンや子育て定期預金、懸賞付き定期預金など特色あふれる商品を出してきました。懸賞付き定期預金は、契約した方の中から抽選で豪華賞品が当たるというもので、商品も南知多

知多信用金庫

〒475-0911
愛知県半田市星崎町3丁目39番地の18
TEL(0569)-22-3511
創業:1927年9月18日
店舗数:36店舗
店外自動機:35か所
従業員数:585人
(非常勤役員・パート・派遣職員を除く)
会員数:58,374人

営業区域:半田市、常滑市、東海市、知多市、大府市、知多郡(東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町)、刈谷市、高浜市、碧南市、豊明市、名古屋市長久手市、日進市、みよし市、愛知郡東郷町、知立市、安城市、西尾市
※平成29年3月31時点



本店営業部に併設された「ほしざきホール」(約300人収容)



南知多町に住む切り絵作家 山崎 修氏の作品が飾られたギャラリースペース

の温泉旅館宿泊券や知多牛などアイデアが光る品々ばかり。企画だけでなく商品の交渉も女性職員自ら担当するなど、あらゆる方向から地域の方とのつながりを深めてくれています。その甲斐あって、懸賞付き定期預金はわずか4カ月で完売。今では第3弾を販売中です。しかもこの成功事例を持って、全国の信用金庫の中央機関である信金中央金庫へ講師として出向くなど、その輪はどんどん広がっています。

これからもお客様に選ばれる 信用金庫であるために。

当金庫は知多半島全域と名古屋市および西三河の一部を営業エリアとしていますが、金融面でも非常に動きの良いエリアです。特に刈谷、大府、東海などは活発ですし、まだまだ伸びしろはあると感じています。そうすると他の金融機関の注目度も高いですから、このエリアで信用金庫として生き残っていく施策が今後の重要課題。そのためには、やはり差別化が求められます。当金庫ならではの自負できるものとして、先に述べた夢サポートや幸せのクローバープロジェクトのほかに、「ちたしん地域経済レポート」があります。これは知多半島の約300社の企業を対象にアンケートを実施し、その回答をもとに知多半

島の経済動向をまとめたもので年4回発行しています。業種ごとの動向をはじめ知多半島の業況見通し、業績予想、人口推移、天候までをイラストやグラフを多用し、誰でもひと目で分かる誌面づくりを心がけています。おかげさまで日本銀行や東海財務局からお褒めの言葉をいただいたり、多くの企業様からも大変好評をいただいています。

また、今後は金融機能の枠にとどまらないサービスの提供にも力を入れていきたいと考えています。たとえば営業中の地域見守り活動の強化や、認知症サポーター養成講座を修了し「認知症サポーター」の資格を持った職員を増やすなど、信用金庫としてできることは積極的に関わっていききたい。そういった中で、大学などの教育機関の知恵をお借りしたいと思っています。

同じ想いを持つ 日本福祉大学に期待。

現在、当金庫には日本福祉大学の卒業生が16名勤務し、それぞれ素晴らしい仕事をしていただいています。そのほかにも日本福祉大学の学生さんが、私どもが苦手とする部分をピックアップして改善のアイデアをくれたり、先生方には夢サポートの創設時から審査員を務めていただいたり、ちたしん地域経済レポートにコラムを執筆していただくなど、雇用の関係だけでなくさまざまな交流をさせていただいています。その縁は年々深くなっていると感じています。2015年に産学連携を結んでからは、当金庫の職員が大学の講義で講師として話をさせていただく機会も増え、情報交換がさらに盛んになりました。日本福祉大学の先生や学生の皆さんと接することで刺激を受け、大学で講師を

した職員は必ず成長して帰ってきますから。学生さんたちとの触れ合いで多くのものを得られるようで、それは職員の表情ですぐに分かります。そういう面で、当金庫の人材教育にも非常にプラスになっていると思います。日本福祉大学は私たちが基盤とする中に3つのキャンパスがありますし、何より「地域をもっとよくしていこう」という共通の想いでつながっています。今後も蓄積してきたノウハウや情報を交換しあいながら、ともに知多半島をもっともっと元気にしていきたいでしょう。



平成30年1月にオープンした本店営業部(右)と、平成32年1月に竣工予定の本部棟。



日本福祉大学の経済学部「キャリア開発I」で講師として登壇した職員の澤田さん

